

楽曲ミニ知識

テ・デウム (Te Deum)

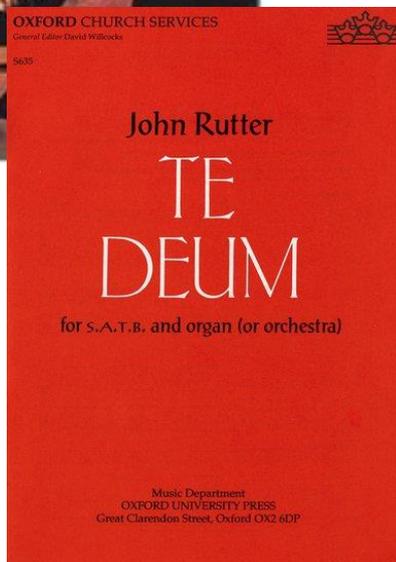
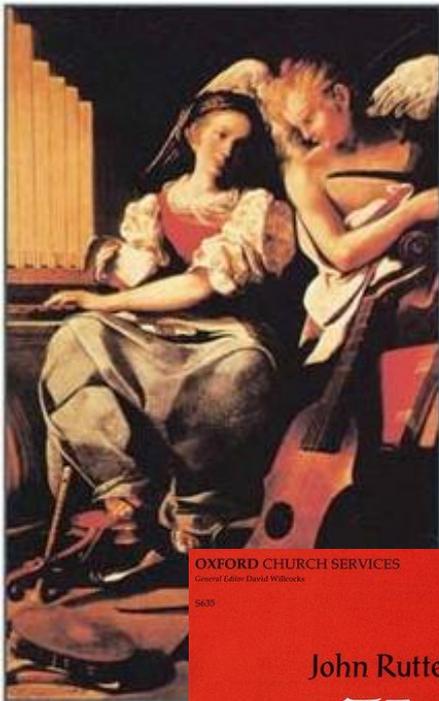
キリスト教のカトリック教会・ルーテル教会・正教会の聖歌の1つ。テキストの冒頭の一文“Te deum laudamus”（われら神であるあなたを讃えん）からこの名称で呼ばれる。

概要

曲種としてはイムヌス（賛歌）に分類される。聖アンブロジウスにより愛弟子の1人へ洗礼を受ける際に即興で作られたとされ、アンブロジウス聖歌からグレゴリオ聖歌に採り入れられた。聖務日課の「朝課」（真夜中の祈り）の最後に歌われることが多い。

演奏会で歌われる作品としては、シャルパンティエやベルリオーズ、ブルックナーによるものが著名。この他、ブライアン交響曲 第1番「ゴシック」やミヨーの交響曲 第3番「テ・デウム」のように交響曲のテキストとして用いる例もある。

(Wikipedia)



ジョン・ラター(John Rutter)

1945年9月24日生。イギリスの作曲家・指揮者である。主に合唱の分野で活躍し、その曲は英米を中心にポピュラーになっている。日本語ではラッターとも表記される。作品の多くはオックスフォード大学出版局から刊行されている。



経歴

ロンドン生まれ。ハイゲイト校 (Highgate School) の聖歌隊員を経て、ケンブリッジ大学のクレア・カレッジ (Clare College) で音楽を学ぶ。在学中から既成のクリスマス・キャロルを編曲するとともに、自ら作詞・作曲した新作キャロルを発表する。卒業後、1975年から同カレッジの音楽科主任を務めた。

1979年、作曲活動に専念するためカレッジを辞し、1981年には教え子を中心としたプロの合唱団ケンブリッジ・シンガーズ (The Cambridge Singers) を結成。1984年には専用レーベルのコレギウム・レコード (Collegium Records) を設立、自作を含めた合唱曲を多数録音している。

また、フォーレ作曲『レクイエム』の校訂をおこない、1984年に1893年版が出版された。これは、オーケストラの編成がそれまで一般的に演奏されてきたものより小規模な「第2版」で、作曲者の意向を反映したものとされている。その後第2版を再現する試みがいくつかなされているが、ラターの1893年版はその嚆矢となった。

作風

20世紀後半の作曲家としては異例なほど保守的で、前衛的・実験的な要素はほとんど見られない。それに代わって、ポップで歌うのが楽しい旋律とすっきりとした和音が曲の基調をなし、諸所に変拍子やジャズのイディオムを混ぜることで現代性を加えている。また、グレゴリオ聖歌を引用するところや、民謡を積極的に取り入れることもあり、音楽を専門としない人たちにも親しみやすさがある。

印象的でポップな旋律によって、各国のアマチュア合唱団の間では絶大な人気を誇る一方、キリスト教に関連した合唱曲が大半なのにもかかわらず、本国イギリス・聖公会およびキリスト教国およびプロの合唱団からは、重要な作品とみなされておらず、合唱曲のポップ版、またはクリスチャン・ロックの合唱版と同じレベルでみられている。

日本においては、1980年代後半に作品が歌われ始め、1990年代にケンブリッジ・シンガーズのCDが多数輸入されるようになると、広く演奏されるようになった。

(Wikipedia)

English Text of the Te Deum

I. Praise to the Trinity

We praise thee, O God: we acknowledge Thee to be the Lord.
All the earth doth worship Thee, the Father everlasting.
To Thee all Angels cry aloud: the Heavens and all the powers therein.
To Thee Cherubim and Seraphim continually do cry,
Holy, Holy, Holy: Lord God of Sabaoth;
Heaven and earth are full of the Majesty of Thy Glory.
The glorious company of the Apostles praise Thee.
The goodly fellowship of the Prophets praise Thee.
The noble army of Martyrs praise Thee.
The holy Church throughout all the world doth acknowledge Thee;
The Father of an infinite Majesty;
Thine honourable, true, and only Son;
Also the Holy Ghost: the Comforter.

II. Praise of Christ

Thou art the King of Glory, O Christ.
Thou art the everlasting Son of the Father.
When Thou tookest upon Thee to deliver man:
Thou didst not abhor the Virgin's womb.
When Thou hadst overcome the sharpness of death,
Thou didst open the Kingdom of Heaven to all believers.
Thou sittest at the right hand of God in the glory of the Father.
We believe that Thou shalt come to be our Judge.
We therefore pray Thee, help Thy servants
whom Thou hast redeemed with Thy precious blood.
Make them to be numbered with Thy Saints in glory everlasting.

III. Prayers

O Lord, save Thy people:
and bless Thine heritage.
Govern them and lift them up for ever.
Day by day we magnify Thee;
and we worship Thy Name, ever world without end.
Vouchsafe, O Lord, to keep us this day without sin.
O Lord, have mercy upon us.
O Lord, let Thy mercy lighten upon us: as our trust is in Thee.
O Lord, in Thee have I trusted: let me never be confounded.

trinity/trínəti/[the T~]三位一体

thee/ði:/=you(目的格)
acknowledge/əknəʊlɪdʒ/承認する
doth/dɒθ/=does **worship**/wɔːrʃɪp/崇拜する
everlasting/ˈɛvərlæstɪŋ/永遠の
therein/ðəˈeɪn/そこに

cherubim/tʃɛrəbɪm/智天使(複数)
seraphim/sɛrəfɪm/熾天使(複数)
Sabaoth/səˈbeɪθ|səˈbeɪθ/万軍

majesty/məˈdʒɛsti/(神の)権威
glory/glɔːri/栄光
company/kəmˈpəni/集まり
Apostles/əˈpɒsl/使徒

the Prophets/ðə prəˈfɛts/(旧約聖書の)預言者
noble/nəʊbl/高潔な **martyr**/mɑːtɜː/殉教者

throughout/θruːaʊt/の至る所に

infinite/ɪnfəˈnɪt/無限の

thine/ðaɪn/=your **honourable**/ˈɒnərəbl/尊敬すべき
ghost/ɡəʊst/霊 **comforter**/kəmˈfɔːtə/慰める人; 精霊

Christ/kraɪst/キリスト

art/ɑːt/=are

everlasting/ˈɛvərlæstɪŋ/不滅の
thou/ðəu/=you(主格) **tookest upon**/tʊkəst əˈpɒn/=took on,(責任を)負った
deliver/dɪlɪvə/届ける
didst/dɪdst,dɪtst/=did **abhor**/əbˈhɔːr/忌み嫌う
womb/wʊ:m/子宮
hadst/hædst/=had **overcome**/ˌoʊvərkʌm/打ち勝つ
sharpness/ʃɑːpnəs/鋭さ
kingdom/kɪŋdəm/王国 **believer**/bɪlɪˈvɜː/信じる者
sittest/sɪtəst/=sat(過去形)

shalt/ʃælt/=shall **judge**/dʒʌdʒ/裁判官

therefore/ðɛəfɔːr/それゆえに **pray**/preɪ/(神に)懇願する **servant**/sɜːvənt/しもべ
hast/hæst/=have **redeem**/rɪdɪ:m/救い出す
precious/preɪs/貴重な
number/nʌmbə/数える

prayers/preɪə/祈りの言葉

bless/blɛs/加護を祈る **heritage**/hɛrətɪdʒ/遺産
govern/gəˈvɜːn/治める **lift**/lɪft/高める

day by day/日ごとに **magnify**/mæɡnəfaɪ/ほめたたえる

vouchsafe/vaʊtʃseɪf/賜る **sin**/sɪn/罪

mercy/mɜːsi/慈悲

lighten/laɪtn/明るく照らす **trust**/trʌst/信頼

confound/kɒnfəʊnd/まごつく、うろたえる

(Ⅰ. 三位一体への賛美)

あなたを、神よ、わたしたちは讃えています。あなたへの信仰を、主よ、わたしたちは宣言します。
あなたを、わたしたちの永遠の父を、あなたの全王国は崇拜しています。
あなたにすべての天使たちが、あなたにすべてもろもろの天国と、天使たち総勢が、
あなたにケルビムとセラフィムが、休むことなく大声でこう叫びつづけています：
聖なる方だ、聖なる方だ、聖なる方だ、主は、天の軍勢を統べられる神は。
天と地上はあなたの栄光のすばらしい輝きに満ちています。
ほまれにかがやく使徒のむれ、
ほめたとうべき預言者のあつまり、
潔き殉教者の一軍皆もろともに御身をたたえ
あなたを全地上で清らかなキリスト教会が認めています、
ものすごく立派な威厳ある父だと、
そしてあなたのたった一人の本当の御子と、
慰めに来てくださる聖霊と。

(Ⅱ. キリストへの賛美)

あなたはとて名高い王です、キリストよ。
あなたは父の永遠の息子です、いつまでも。
あなたは罪をゆるすためにあの人（＝イエス）を我が子とされようとして、
処女の腹を嫌悪しませんでした。
あなたは死の苦しみに勝って、
天上の国々にあなたを信じる者たちが入れるようにしてくださいました。
あなたは神の右側に座り、父をたたえています。
あなたは来たるべき裁判官（審判者）であると信じられています。
そのときには、あなたにお願いします、あなたのしもべたちを助けに来てください、
あなたが尊い死という代償を払って解放したわたしたちを。
あなたのしもべたち全てが、特に聖人とされる人たちとともに、永遠に名誉ある者として数えられつづけるようにしてください。

(Ⅲ. 祈祷)

あなたの民を罪の罰から解放してください。主よ。
あなたの残した遺産を祝福してください。
そして彼らを導いてください、彼らを励みつづけてください、永遠の未来までずっと。
毎日1日中、わたしたちはあなたを拝んでいます；
そしてわたしたちはあなたの名をいつまでも、いつまでも、讃えつづけます。
主よ、その日にはわたしたちに罰を加えず、わたしたちを守ってください。
わたしたちの仲間を憐れんでください、主よ、わたしたちの友に同情してください。
あなたの憐れみが、主よ、わたしたちの上にかげられますように！
わたしたちはあなたにずっと望みをかけてきたのですから！
あなたに、主よ、わたしはずっと期待してきました。わたしはこれからも永久に心を乱すことはないでしょう

原文（ラテン語）

Te deum laudamus te dominum confitemur.
Te aeternum patrem omnis terra veneratur.
Tibi omnes angeli, tibi caeli et universae potestates,
tibi Cherubim et Seraphim incessabili voce proclamant,
sanctus, sanctus, sanctus dominus deus sabaoth.
Pleni sunt caeli et terra maiestatis gloriae tuae.
Te gloriosus apostolorum chorus,
te prophetarum laudabilis numerus,
te martyrum candidatus laudat exercitus.
Te per orbem terrarum sancta confitetur ecclesia,
patrem immensae maiestatis,
venerandum tuum verum, et unicum filium,
sanctum quoque paraclitum spiritum.

Tu rex gloriae, Christe.
Tu patris sempiternus es filius.
Tu ad liberandum suscepturus hominem,
non horruisti virginis uterum.
Tu devicto mortis aculeo,
aperuisti credentibus regna caelorum.
Tu ad dexteram dei sedes, in gloria patris.
Judex crederis esse venturus.
Te ergo quaesumus, tuis famulis subveni,
quos pretioso sanguine redemisti.
Aeterna fac cum sanctis tuis in gloria numerari.

Salvum fac populum tuum domine,
et benedic hereditari tuae.
Et rege eos, et extolle illos usque in aeternum.
Per singulos dies, benedicimus te.
Et laudamus nomen tuum in saeculum, et in saeculum saeculi,
Dignare domine die isto, sine peccato nos custodire.
Miserere nostri domine, miserere nostri.
Fiat misericordia tua domine super nos,
quemadmodum speravimus in te.
In te domine speravi non confundar in aeternum.

意識文（公教会祈禱文）

<天主にまします御身をわれらたたえ、主にまします御身を讃美し奉る。
<永遠の御父よ、全地は御身を拝みまつる。

<すべての御使いら、天つ御国の民、よろずの力のある者、
<ケルビムも、セラフィムも、絶え間なく声高らかに御身がほぎ歌をうたいまつる。
<聖なるかな、聖なるかな、聖なるかな、万軍の天主、
<天も地も、御身の栄えと御霊威とに充ち満てりと。
<ほまれにかがやく使徒のむれ、

<ほめたとうべき預言者のあつまり、

<潔き殉教者の一軍、みなもろともに御身をたたえ、
<全地にあまねき聖会は、共に賛美し奉る。

<御身、限りない御いつの御父を、

<いとたかき御身がまことの御独り子と、

<また、慰め主なる精霊と。

<御身、栄えの大君なるキリストよ、

<御身こそは、聖父のとこしえの聖子、

<世を救うために人とならんとて、

<おとめの胎をもいとわせ給わず

<死のとげにうち勝ち、

<信ずる者のために天国を開き給えり。

<御身こそは、御父の御栄えのうちに、天主の右に座し、
<裁き主として来りますと信ぜられ給う。

<願わくは、尊き御血もてあがない給いししもべらをたすけ給え。

<彼らをして諸聖人と共に、永遠の栄えのうちに数えらるるを得しめ給え

<主よ、御身の民を救い、

<御身の世継ぎを祝し、

<かれらを治め、永遠にいたるまで、かれらを高め給え。
<われら、日々、御身に謝し、

<世々にいたるまで御名をたたえ奉る。

<主よ、今日われらを護りて、罪を犯さざらしめ給え。
<われらをあわれみ給え。主よ、われらをあわれみ給え。
<主よ御身に依り頼みしわれらに、御あわれみをたれ給え。

<主よ、われ御身に依り頼みたり、わが望みはとこしえに空しからまじ。